

自生枝物ツルウメモドキの栽培法

福島県農業試験場 いわき支場
平成12～16年度福島県農業試験場試験成績概要
分類コード 05-29-02080000

部門名 花き—その他の花木—採種・繁殖、整枝・剪定
担当者 矢吹隆夫・諏訪理恵子

I 新技術の解説

1 要旨

本県の枝物振興に有望と思われる自生枝物ツルウメモドキの栽培において、今まで不明であった増殖方法、生育に適した樹形管理法および仕立方法を明らかにした。

- (1) ツルウメモドキの増殖方法は挿し木が適している。方法としては密閉挿しが良く、挿し木部位に枝の中央部分を用い、挿し床に含水率の低い山砂を使用すると、適量発根の割合が高くなる。
- (2) ツルウメモドキの樹形管理法は、棚もしくは支柱等に枝を誘引して管理すると枝の生育が良く切り枝の本数も多くなる。
- (3) ツルウメモドキの仕立て方法は地際から100cmの高さで台付け(摘心)すると枝の生育が良く、ボリュームのある切り枝を収穫することができる(表1)。

2 期待される効果

ツルウメモドキの栽培が可能となり、遊休農用地等の有効利活用に寄与できる。

3 適用範囲

土地利用型作物であるため、遊休農用地などが利活用できる地域。

4 普及上の留意点

- (1) ツルウメモドキは雌雄異株であるため、増殖には市場性のある雌株を用いる。また、定植の際は、交配用として雄株をほ場周辺へ定植する。
- (2) 挿し木時期を7月とすると、定植適期に成苗となる為、効率良くほ場展開できる。
- (3) 誘引した枝同士が絡み合わないよう整枝管理を行う。

II 具体的データ等

ツルウメモドキ栽培略図

年数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1年目							▽	—	△	—	⊙	—
2年目												
3年目			×									
4年目												
5年目												

▽挿し木 △仮植

⊙定植：条間3.6m×株間3.6m 施肥量：N:1.0,P:0,K:0.12 (kg/a)

×台付け(摘心) □切り枝

ツルウメモドキの増殖方法

挿し木方法	密閉挿し
挿し床	含水率の低い用土 例)山砂など水はけの良い用土
挿し木部位	枝の中央部分

挿し木繁殖が適する

表1 ツルウメドキの樹形管理および台付け(摘心)の
高さの違いと切り枝2年目の生育(2004年)

樹形管理	台付け (摘心)の 高さ	切り枝 本数 (本/株)	切り枝 長 (cm)	切り枝 重 (g)	実付 分枝数 (本)
支柱誘引	100cm	20	254	395	44
	50cm	19	192	202	34
	無処理	13	234	533	35
棚誘引	100cm	17	326	520	34
	50cm	9	244	621	35
	無処理	10	214	333	43

定植時期 2000年11月10日

栽植様式 条間3.6m×株間3.6m

台付け(摘心)時期 2002年3月上旬

Ⅲ その他

1 執筆者

矢吹隆夫、諏訪理恵子、宗方宏之

2 主な参考文献・資料

なし